

中学部「作業学習（園芸班）」学習指導案

日 時	平成30年 7月13日（金） 2・3校時（9：35～10：55）
場 所	中学部園芸加工室・園芸加工準備室
対 象	中学部1年～3年（6名）
指導者	羽藤幸恵（T1） 伊藤慎悟（T2） 高橋 幸（T3）

I 単元名 「園芸作業Ⅲ：肴町商店街で販売しよう①～みんなでラベンダーポプリを100個作ろう～」

II 授業づくりの視点

1 単元の設定【前單元からのつながりを生かし、全員で目的を目指し取り組める単元に】

本単元は、肴町での作業製品販売会に向けて、販売会で売ることを意識しながら、みんなで協力してラベンダーポプリを製作する。

園芸班は中学部1～3年生の6名の生徒で構成されており、全員が4月から園芸班の活動に取り組み始めたばかりである。生徒たちは本単元で外部での販売会やラベンダーポプリの製作に今年度初めて取り組む。

園芸班の作業は、時期によって活動内容が変わることが特徴である。園芸作業Ⅰで生徒たちはバケツに土を入れて運んで畝を立てたり、土をふるって細かくしたりして畑を作った。園芸作業Ⅱでは全員で役割分担をして1,500個の枝豆の苗を作り、できた苗を畑に植えた。初めての活動では疲れや見通しのもちにくさから、活動が途切れる生徒もいたが、繰り返し活動に取り組む中で見通しをもち、意欲や自信をもって自分の役割に時間いっぱい取り組む姿が見られた。また、目標数の枝豆の苗が完成したときには全員で喜び合った。活動内容は変化するが、生徒たちは畑作りや苗作りといった同じ目的に向かって仲間と共に日々、自分の役割を果たすことができた。

そこで本単元では、肴町販売会で販売することを目的として主にラベンダーポプリの製作に取り組む。材料には、校地内のラベンダーを使用する。生徒一人一人が自分の得意なことを生かして作業に取り組めるよう、工程を分担して全員で取り組むことで、仲間と活動の目的を共有しながら日々の自分の役割に意欲的に取り組むとともに、目的を達成した喜びを得られると考え、本単元を設定した。

2 単元の計画【毎日自分の役割を繰り返し、ラベンダーポプリの完成に向かって積み重ねる計画に】

単元全体の計画は、第1次では販売会に向けたオリエンテーションを行う。第2次ではちらし配りを行い、販売会の宣伝を行うとともに、販売会を行う場所を確認し、販売会への見通しや期待感をもてるようにする。日々の作業では、販売会で販売することを意識しながら、全員で製品を作るという目的に向かって役割分担をし、ラベンダーポプリ作りに取り組む。販売会前日には、販売会の成功を目指して学部全体で直前集会を行い、それぞれの作業班の製品を紹介し合い、販売についての確認をする。第3次では、肴町販売会で製品を販売し、第4次では活動の振り返りを行う計画である。

本単元の中心は第2次のラベンダーポプリの製作である。毎日同じ活動に繰り返し取り組むことで、自分の役割が分かって活動するとともに、自分の頑張りが全員の目標達成につながることを意識しながら作業に取り組む姿を期待したい。

3 活動内容【自分のもっている力を生かし、役割に存分に取り組める活動内容に】

本単元の中心であるラベンダーポプリの製作では、主に以下のような工程に分けて作業に取り組む。乾燥したラベンダーを花と茎に分ける「花取り」、ポプリの中に入れる花と綿の重さを量る「計量」、ポプリをお茶パックに入れる「パック詰め」、ポプリを包む袋を作る「袋作り」、袋にポプリを入れて販売できる状態にする「包装」である。

販売会に向けてみんなでラベンダーポプリを作るという目的を共有しながら、仲間と助け合い、意欲的に活動できるよう、生徒の役割分担については園芸作業Ⅰ、Ⅱの様子や学校生活の様子、前年度までの作業学習の様子を参考にしながら生徒一人一人の得意なことや良さを生かして行う。また、生徒の役割を固定し、毎日同じ活動に繰り返し取り組むことで、自分の役割を理解し、自信をもって日々の活動に進んで取り組めるようにする。

4 学習内容への支援【活動しやすい道具や配置にし、自分から取り組めるように】

日々の作業においては、道具や支援具の工夫を行い、工程順に道具を配置して、生徒一人一人が活動しやすいように配慮することで、自分から活動に次々に取り組めるようにする。また、それぞれの工程に分かれて活動しているが、自分の活動が他の生徒の活動に必要であると分かるよう、適切に関わりをもつと共に、移動しやすい導線になるように配慮する。さらに、教師は取り組みの様子を称賛したり励ましの声掛けをしたりすることで、最後まで意欲を継続して取り組めるように働き掛けを行う。

5 協働的活動への支援【一体感をもち全員で一つの目的に向かうための支援に】

販売会に向けて、園芸班全員で目標の達成を目指し、一体感を感じられるよう、生徒も教師も同じ空間で活動するとともに、お互いの様子が見えるようにし、お互いの頑張りを認め合える場の設定を行う。また、工程の流れが分かるに配置することで、自分の役割が工程の大切な一部を担っていることを感じるとともに、役割をやり遂げた達成感を実感できるようにしたい。さらに、花取りで取った花を計量で使い、計量した材料をパックに入れ、パックを入れる袋を作り、完成したラベンダーポプリを包装する、というように自分の活動が次の工程で使われることで、お互いの活動の関わり合いを感じ、園芸班が一丸となってポプリを作っていると意識できるようにする。その中で教師は役割の一部を担って共に活動し、共感的な支援ができるようにする。

Ⅲ 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】

- 1 肴町販売会に向けて、各自の役割を果たし、全員で協力してラベンダーポプリを作る。
- 2 自分たちが作った製品が売れる喜びを感じながら販売する。

IV 単元計画（総時数27時間、12日間）

	主な活動内容	月 日	時 数
第1次	・オリエンテーション	7月5日(木)	1時間
第2次	・梅の砂糖漬け作り ・ラベンダーポプリの製作	7月5日(木)～7月19日(木)	17時間(本時10、11/17)
	・ちらし配り	7月9日(月)	2時間
	・直前集会	7月19日(木)	1時間
第3次	・肴町販売会	7月20日(金)	4時間
第4次	・振り返り	7月23日(月)	2時間

V 本時の授業

1 本時の授業について

本時は本単元が始まって7日目である。生徒たちは自分の仕事にも慣れてきて、見通しをもって取り組み始めている。多くの生徒が販売会で売るという活動の目的や、自分の役割も理解している。

そこで本時は、生徒一人一人が自分の役割が分かって主体的に活動する姿を目指し、教材教具や場の設定、働き掛けの工夫を行う。また、生徒たちは既に販売会で売るという目的や、自分の仕事内容を理解しているので、次々に作業に取り組めるよう、始めの会は設定せず、準備ができれば作業に取り組めるようにした。活動中は、それぞれの工程に分かれて活動する。終わりの会では各自の頑張りや成果を作業のポイントに沿って確認するとともに、全員の頑張りによって目標としているラベンダーポプリの完成数に近づいていることに触れ、次時の作業や販売会への意欲を更に高められるようにしたい。

2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】

- (1) 肴町販売会に向けて、100個のラベンダーポプリの完成を目指して全員で協力して作業に取り組む。
- (2) 各自の目標達成を目指し、自分の役割に進んで取り組む。

3 本時の展開

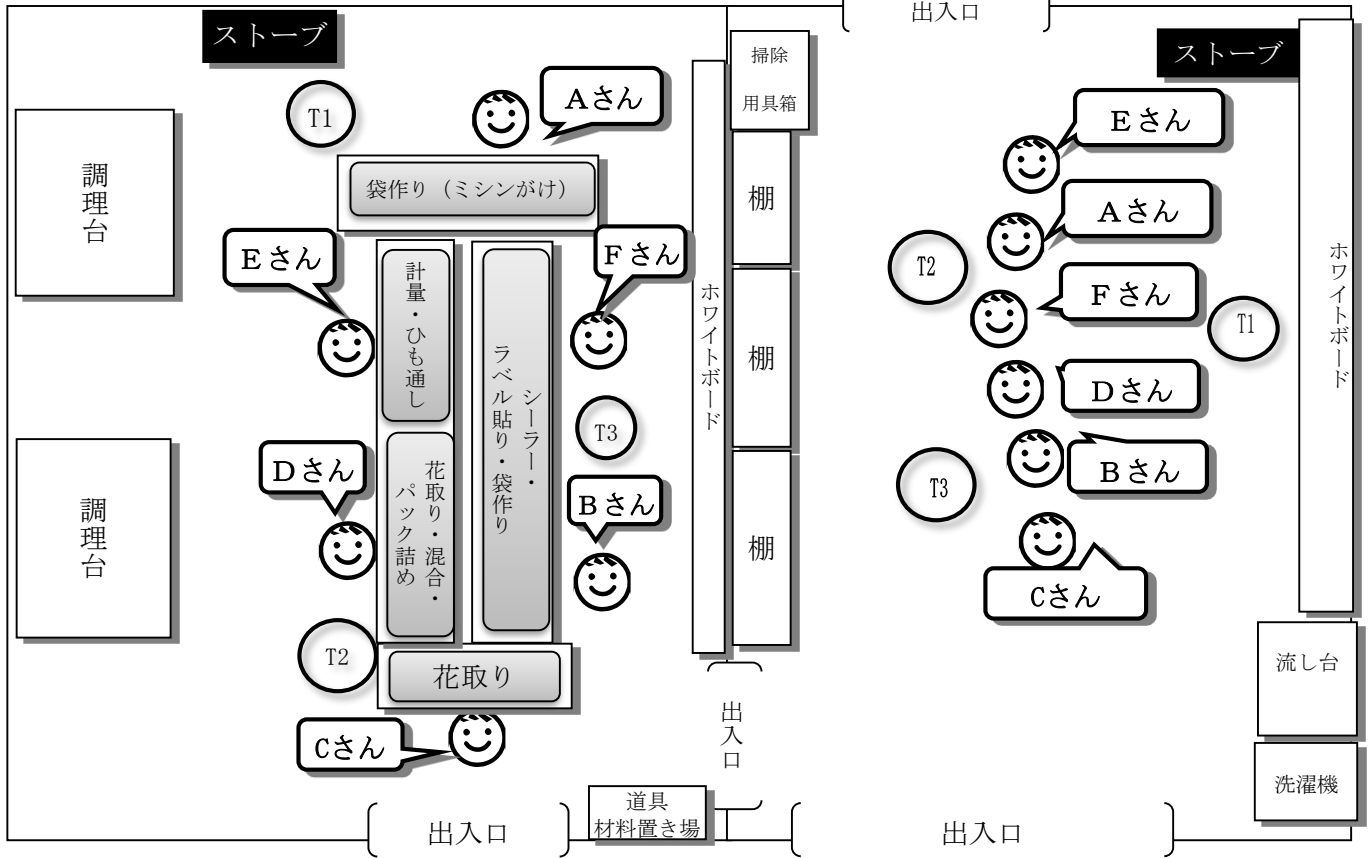
学習活動（時間）	支援上の留意点
1 準備 (9:35～9:40) ○本時の目標をがんばりカードで確認する。 ○使用する道具を用意する。	○各自の本時の目標が分かるよう、がんばりカードに目標や本時で気を付けるポイントを表示しておく。 ○必要に応じて使用する道具を置く場所を表示する。 ○できるだけ自分で準備できるように、道具を配置する。
2 ポプリの製作 (9:40～10:40) ○各工程に分かれ、それぞれの役割に取り組む。	○準備ができた生徒から作業を始める。 ○教師はそれぞれの工程に入り、生徒と共に作業を行う。

<p><ラベンダーの花取り> Cさん、Dさん ○乾燥したラベンダーを、手で茎と花に分ける。</p>	<p>○Cさん、Dさんが次々に活動できるよう、道具を配置する。 ○教師は、Cさん、Dさんが継続して作業を行っているときには適宜称賛する。</p>
<p><花と綿の計量、ひも通し、ひも結び> Eさん ○ラベンダーの花2gと、綿3gを計量する。 ○ポプリの袋にひもを通し、端を結ぶ。</p>	<p>○手順を守って作業できるよう、教師は適宜確認する。 ○Eさんが意欲をもって活動に取り組めるよう、教師は正確に作業ができたときには称賛の声掛けを行い、全体にも伝える。 ○ひもを通しやすいよう、一定の長さにひもを切っておく。</p>
<p><ポプリと綿の混合、パック詰め> Dさん ○計量した花と綿を混ぜ合わせる。 ○お茶パックに混ぜ合わせたポプリを詰める。</p>	<p>○次々に作業に取り組めるよう、材料や道具の配置に留意する。 ○手順を守って活動できるよう、教師は適宜見守りや称賛の声掛けを行う。</p>
<p><袋作り・ミシンがけ> Aさん ○ポプリの袋をミシンで縫う。</p>	<p>○縫う場所が分かりやすいよう、印を付ける。 ○安全にミシン掛けができるよう、教師が側で見守ると共に、ミシンを操作する上での留意点を表示する。 ○困ったときには教師に報告するよう、確認する。</p>
<p><袋作り> Fさん ○包装袋のラベルを貼る。 ○編み機でポプリを入れる袋を編む。</p>	<p>○次々に作業に取り組めるよう、材料や道具の配置に留意する。 ○ちょうど良い長さの袋を作れるよう、教師は編み上げた長さを確認する。</p>
<p><包装袋のラベル貼り、シーラー加工、袋作り> Bさん ○包装袋にラベルを貼る。 ○ポプリの入ったパックをシーラーで密閉する。 ○完成したポプリを包装袋に入れ、シーラーで密閉する。 ○編み機でポプリを入れる袋を編む。</p>	<p>○できるだけ自分で取り組めるよう、道具を配置する。 ○Bさんが手順通りに作業を進めているか、教師は適宜確認する。 ○丁寧に作業を行っているときには、適宜称賛する。</p>

<p>3 片付け・掃除・移動(10:40～10:45)</p> <p>○片付け、掃除する。</p>	<p>○各自が使った道具を元の場所に戻すよう、声掛けを行う。</p> <p>○教師も生徒と共に片付け作業を行う。</p> <p>○片付けが終わった生徒は園芸加工準備室に移動する。</p>
<p>4 終わりの会 (10:45～10:55)</p> <p>○今日の成果を報告し合う。</p> <p>○表に完成しポプリの数の印を付ける。</p> <p>○次時の活動を確認する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>○それぞれの成果を確認する際には、教師も生徒と共に称賛の声掛けや拍手を行う。</p> <p>○明日の活動に見通しと期待がもてるように、がんばりカードや出来高表を使用する。</p> <p>○ポプリの完成数が目標数に近づいていることが分かるように表に印を付けて示し、全員で喜び合う。</p>

4 配置図 園芸加工室（ポプリの製作）

園芸加工準備室（終わりの会）



VI 個人の目標及び支援（7月11日作成）

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他）
<p>Aさん (1年・男)</p> <p>・袋作り(ミシンがけ)</p>	<p>・初めてミシンを扱うため、初めは不安を口にすることがあったが、ミシンの扱い方を覚えて慣れてきた。機械を操作することには意欲的である。</p> <p>・ミシンに慣れてくると、手元から目を離したり、縫う線からはみ出したり、布の端まで返し縫いをしなかったりすることもあったが、教師の指摘を受けて、安全や丁寧さに気を付けて作業を行うことができる。</p>	<p>・ミシン掛けの活動に、安全に気を付けながら、最後まで丁寧に取り組む。</p>	<p>・ミシン掛けの作業で気を付けるポイントを、がんばりカード等で示す。</p> <p>・ミシンを掛ける位置や返し縫いをする場所が分かるよう、布地に印を付ける。</p> <p>・効率よく作業を進められるよう、道具を配置する。</p> <p>・丁寧な作業を行っているときには適宜称賛の声掛けを行う。</p> <p>・最後まで安全かつ丁寧に取り組めるよう、教師は必要に応じて声掛けを行う。</p>
<p>Bさん (1年・女)</p> <p>・ラベル貼り</p> <p>・パックと包装袋へのシーラー加工</p>	<p>・3種類のラベルを貼る位置がだいたい分かり、取り組むことができるが、ラベルが斜めになったり、テープがはみ出したりすることがある。</p> <p>・シーラー加工は、パックの中身が飛び出さないように教師が押さえたり、確認したりすることで、パックの口を密着させることができる。</p> <p>・毛糸の袋作りに意欲的で「やりたいです」と話しながら取り組んでいる。</p>	<p>・目標数に向かって、自分のペースで進んで活動に取り組む。</p>	<p>・正確にラベル貼りができるよう、台紙にガードを付けたり、ラベルを貼る位置を示したりする。</p> <p>・シーラー加工は、パックを置く位置が分かるよう印を付ける。また、出来上がりを一緒に確認することで、密着していない部分があるときには、自分で気が付きやり直せるよう促す。</p> <p>・ラベル貼りやシーラー加工の終わりが分かるよう、活動前に目標数のラベルやパックを提示する。また、意欲を継続して最後まで取り組めるよう、毛糸の袋作りを活動の切り替え時に設定する。</p>
<p>Cさん (2年・女)</p> <p>・花取り</p>	<p>・本単元から始めた「花取り」は、「いつまで」の目安が分かりにくく、集中しきれない様子が見られたが、机上の道具の配置を整え、花と枝が分別できるように教師が示範していくことで、花と枝が混在する量も少な</p>	<p>・花取りの活動において、花と枝をできるだけ分別し続ける。</p>	<p>・花が床に散らばらず、かつ花と枝が混在しないように、机上のお盆の中に花と枝を分けて入れる容器を置く。</p> <p>・活動の目安が分かり、自分から準備できるように、机上にラベンダーを入れたお椀を複数用意しておく。</p> <p>・容器からあふれた枝が周囲に散らばらないように、枝を入れる容器があふれそうなどときには、ゴミ箱に捨てるように声掛</p>

	くなってきた。		けする。
Dさん (2年・女) ・綿と花の混合 ・ポプリのパック詰め ・花取り	<ul style="list-style-type: none"> ・綿と花を混ぜ合わせる際、十分に混ぜるように綿の中に花を包み込むようにする手順を覚えてきた。 ・混ぜ合わせた物をお茶パックに入れる際に、お茶パックの底まで押し込むこと、パックの口を広げるための紙コップを取り出すことに、少しずつ一人でできるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花と綿が混ざり合うように、綿の中に包み込むように入れる。 ・お茶パック詰めの一連の工程に次々と取り組み、中身があふれ出ないように、底まで詰める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく綿から花がこぼれ出ないように、綿の広げ方が不十分なときや、混ぜ方が不十分なときには、声掛けをする。 ・一連の流れがスムーズに取り組めるように、道具の置き方や材料を取る位置を、必要に応じて本人と相談しながら整える。 ・お茶パックから紙コップを取り出す際に、中身を押さえながら取り出せるように道具の使い方を見守るとともに、中身があふれ出そうなときには、押し込むように声掛けをする。
Eさん (3年・女) ・花の計量 ・綿の計量 ・ひも通し ・ひも結び	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル秤に2g、3gと数字を表示すると、表示と同じ量で量ることができた。取り組むスピードも日に日に上がっている。 ・2本のひもを通す際にひもの向きが反対になったり、布に引っ掛かったりして、教師に手助けを求めることがあるが、ひも通しは、やり方を覚えて意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計量やひも通しの作業にできるだけ一人で正確に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率良く作業を進められるよう、工程順に道具を配置する。 ・決められた量を正確に計量できるよう、秤に数字を書いて示すとともに、ちょうど良い大きさの容器を用意する。 ・ひもを通しやすいよう、ひもを決められた長さに切っておく。 ・意欲を持続して取り組めるよう、正確に取り組んでいるときには、適宜称賛する。 ・困ったときには近くの教師に報告するよう、働き掛ける。
Fさん (3年・男) ・袋作り (毛糸の袋作り) ・ラベル貼り	<ul style="list-style-type: none"> ・袋作りでは、時々手を休めることができるが、声掛けにより再開することができる。 ・ラベル貼りでは、ラベルの位置がズレたり、貼り忘れがあったりするが、次々に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋作りやラベル貼りの仕事をできるだけ一人で次々に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋作りでは、あらかじめ一つ分の毛糸を準備することで、毛糸がなくなるまで一人で取り組むことができるようにする。 ・正確にラベルが貼れるよう、台紙にガードを付けたり、ラベルを貼る位置を示したりする。また、袋の表裏が混乱しないよう、片側ずつラベルを貼るようにする。

Ⅶ 評価の観点

- (1) 肴町販売会に向けて、100個のラベンダーポプリの完成を目指して全員で協力して作業に取り組めたか。
- (2) 各自の目標達成を目指し、自分の役割に進んで取り組めたか。